

第 58 回 世界遺産検定 マイスター試験
講評 および 学習方法

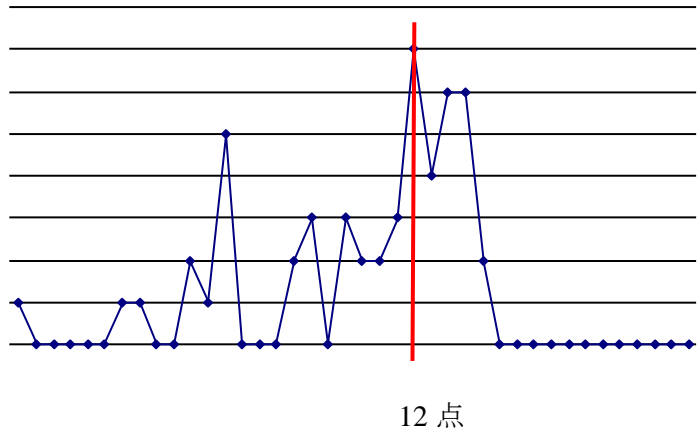
1. 実施概要 2. 認定点と分布 3. 問題 4. 総評 5. 各問の短評と学習法

1. 実施概要

検 定 日：2024 年 12 月 8 日（日）
検定会場：東京・名古屋・大阪
検定時間：120 分
解答形式：論述形式（記述）
申込人数：54 名
受検人数：51 名
認定者数：23 名（認定率 45.1%）

2. 認定点

認定点：12 点（20 点満点）
最高点：14 点
最低点：0.5 点



3. 問 題

1 次の語句を簡潔に説明しなさい。
1. 暫定リスト
2. ヴェネツィア憲章
3. 緊急的登録推薦

2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400 字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。
国際社会全体の義務 危機遺産リスト
世界遺産基金 遺産を保有する国の同意

3 2024 年にパリで開催された国際的なスポーツ競技大会では、世界遺産を含む文化財などを
用いた開会式と競技が行われた。こうした文化財の活用の取り組みは世界各地で進め
られているが、その背景として考えられること、文化財活用のメリットと課題を、具体
的な遺産の事例を挙げながら、1,200 字以内で論じなさい。

4. 総 評

今回は 1 でしっかりと点数を取ることが難しかったようで、大意は合っているものの説明
する上で必須となる要素が抜けていて減点になる解答が多かった。2 では「遺産を保有す
る国の同意」で苦勞している解答が多く、世界遺産条約は国際社会の協力の下で遺産を保
護・保全していく取り組みであるが保護の主体となるのは遺産の保有国であるという点か
ら説明できている解答は点数が高くなった。3 は取り組みやすい出題だったが、オーバ
ーツーリズムの話にすり替わってしまっている解答が多かった。オーバーツーリズムを解答
に含むのはよいが、文化財活用のメリットと課題をバランスよく述べる必要がある。宿泊
やライトアップなどの文化財活用の面ばかりに焦点が当たり、遺産価値そのものの理解が
蔑ろにされているという指摘など独自の視点を書けている解答は点数が高くなった。

5. 各問の短評と学習法

1

短評：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「暫定リスト」では「潜在的な OUV」、
「緊急的登録推薦」では「顕著な普遍的価値があるとみなされる遺産」など、必須
の要素（同意語でも可）が入っていないと減点になってしまう。少ない文字数の中
で、必要な要素を短く端的に説明する能力が求められる。

学習法：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないように
する。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分な
ので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えなが
ら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

短評：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。今回はこれまでと異なり、「国
際社会全体の義務」と「遺産を保有する国の同意」が鍵になっていた。キーワード
は出題者が求める説明のヒントでもあるため、準備してきた世界遺産条約の大枠の
説明と、その場で求められる解答の軸をうまく組み合わせなければならない。キー
ワードに関係なく準備してきたと思われる世界遺産条約の説明から柔軟に対応で
きていない解答は、大きな減点はないものの高い点数を取ることが難しい。

学習法：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必
要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題
中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。
学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくとうい。また
「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数
と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのた
めには、**文章ではなく語句で覚えて**おき、問題に合わせて語句を組み合わせるよ
うにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

短評：2024 年にパリを中心に行われた国際的なスポーツ競技大会を例示した出題であった
こともあり、文化財の活用の問題がオーバーツーリズムの問題にすり替わって論じ
られた解答が非常に多かった。文化財の活用に関しては、日本の文化財保護法など
でも活用が求められているほか、教育コンテンツや無形の伝統文化保護、観光振興、
経済発展など様々な観点から論じることが可能な問題である。その点で遺産価値の
理解促進の不十分さや地域住民の生活と文化受容の間の齟齬などの独自の観点か
ら論じることができている解答は点数が高くなった。また、具体的な遺産の事例を
挙げる際に、名前を箇条書きのように列挙しているものが少なからずあった。具
体的にどの遺産のどの点がどのように事例となっているのか、主に取り上げた遺産と
比較しながら論じなければ、具体的な事例としては不十分である。

学習法：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを
作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を
書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うよ
うにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上
げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使え
る要素も準備しておくとうい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自
分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる
時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定がある
ので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。